

平成 30 年度 砺波高等学校アメリカ研修報告書 (4 日目)

研修 4 日目を迎えました。今日もニューヨークは快晴の一日でした。英語レッスンは 2 日目。昨日の日記には初日の感想が様々綴られていました。インターナショナルクラスになった生徒は、その喜びと同時に難しさ、そしてその中でも環境に満足せずもっと留学生と交流しなければという課題意識。クローズドクラスの生徒は、インターナショナルに行きたかった思いはあるものの、クローズドのレッスンも難しくやらなければならないこと、やれることがたくさんあることを、決意を込めて書いてくれている生徒も少なくありませんでした。まず自分がやるべきことをやりきっているのかということに目を向ける意識の高さと姿勢に共感します。最善を尽くした上で納得がいかなければ、自らクラスの移動を交渉することも出来ます。どこにいたとしても、行動あるのみ。そのことを生徒には忘れず過ごして欲しいと思います。

午後は 9・11 メモリアルミュージアムを訪問しました。最寄駅の Courtland Station に移動してから、9・11 メモリアルの近くにあるフードコートでランチにしました。生徒もだんだん慣れてきた様子で、余裕を持って思い思いの食事を楽しんでいます。

ミュージアムを訪れる前に、全体で研修のこれからについて考える時間を設けました。まだ始まったばかりのように感じるこの研修ですが、1 週間後はもう日本に帰っています。自分たちがこの研修に参加を決めた目的と今の行動に乖離はないのか、主体的に思考し行動することをなおざりにし、自分が成長することを環境に依存していないか、昨日の様子を見て今この機会を設けるべきと考えました。かなり限られた時間の中で、生徒の言葉を聞く時間は十分に取ることができませんでしたが、「昨日 (国連で) ももっとできることがあったし、語学学校でも留学生に声をかけてみるべきなのにできていなかった」「自分は英語も全然できないが、それでも何とかしようとかがいている。みんなでもっとあがこう」「自分の人生の転機になる体験だから、後悔のないように取り組むべき」など、率直な意見を全体に共有してくれました。

その後、1 時間 15 分のフリータイムを 9・11 ミュージアムで取りました。同時多発テロの跡地に作られたこの施設は、テロの悲惨さと平和の尊さを後世に伝える役目を果たしています。多くの大人にとってはそう古い記憶でもなく、あの日を境に世界で多くのことが変わった日でもあります。生徒にとってはリアルタイムの出来事ではありません。この大都会ニューヨークの真ん中で、人を、宗教を、国家を憎む人間の心によってテロが起き、ここワールドトレードセンターだけでも約 2,700 人が亡くなったことを様々な映像や残存資料から知り、生徒からも「(写真が展示されている) あんなに素敵な笑顔の人々や小さな子供が犠牲になったなんて悲しい」「日本人も亡くなっていると知った。胸が痛い」などの感想が聞こえてきました。自分には関係の無い出来事ではなく、自分自身がその世界の一部であることを真剣に考える時間となったのではないのでしょうか。

気付けばアメリカで過ごす日も残り 4 日。あっという間に折り返し地点となりました。明日の英語レッスン、そして午後訪問するコロンビア大学で、生徒がますます前のめりな姿になっていることを期待したいと思います。以上、研修 4 日目の報告といたします。



英語レッスン2日目の様子。笑顔が増えています



アクティビティに出かける際には、地下鉄のいろはを入念に確認します



ランチタイム①



ランチタイム② (日本のお茶を発見したようです)



研修のこれからについて意見を共有しました①



研修のこれからについて意見を共有しました②



グラウンドゼロ ツインタワー跡地①



グラウンドゼロ ツインタワー跡地②



9・11 メモリアルミュージアム①



9・11 メモリアルミュージアム②



9・11 メモリアルミュージアム③



9・11 メモリアルミュージアム④